

理解推進事業

市内を巡るもうひとつの作品展 京王のギャラリーバスが運行中

昨年末に開催された第24回多摩市障がい者美術作品展から、出品作品やそれらの制作過程を紹介するギャラリーバスが今年も1月中旬から運行中。京王電鉄の路線バス車内に30点あまりの写真パネルが掲示され、絵やイラスト、書など多彩な作品を眺めることが出来る。運行は3月末まで。路線やスケジュールは京王バス多摩営業所(Tel042-357-0031)まで問合せ。



⊖いろいろな作品があり制作過程を想像しながら見るのも楽しい(写真は昨年のも)

資源化センター事業

12月は100トン超を処理 アルコール消費も増え前月比3割増

12月の作業実績は13日間でおよそ65時間。総選別量は104.2トンで、前月と比べ約3割増となった。クリスマスから年末にかけて飲酒の機会が増え、酒びん類が増えたことが大きな要因だ。



⊖再利用できるびんは種類ごとに選別しリサイクル



⊖レーンの上を右手から次々に流れてくるびんを色別に分ける。正確な判断とスピードが求められる

加盟団体からのお知らせ

アートひまわり
南野3-15-1 5階 ☎373-8455
NPO 法人あしたや共働企画
諏訪5-6-3-101 ☎372-3690
NPO 法人暉望
永山4-2-4-103 ☎389-1234
NPO 法人くぬぎ
永山3-9 ☎375-2583
NPO 法人どんぐりパン
諏訪5-6-3-105 ☎371-9236
サンクラブ多摩
南野3-15-1 5階 ☎356-0308

多摩市視覚障害者福祉協会
聖ヶ丘1-28-26-103 ☎372-8051
多摩市身体障害者福祉協会
南野3-15-1 3階 ☎338-7009
多摩市手をつなぐ親の会
聖ヶ丘1-19-3-304 ☎374-8740
多摩市聴覚障害者協会
聖ヶ丘1-19-5-201 ☎372-0939

※電話番号の市外局番は、042です

(あいうえお順)

移動支援事業

イベントいっぱいの12月は ヘルパーもフル稼働



⊖ショッピングや街歩きもヘルパーと一緒に安心



クリスマスや冬休みなどイベント盛りだくさんの12月は1年で最も利用の多い月。この年末も立川昭和記念公園でのイルミネーション鑑賞やショッピング、カラオケなど54件の利用があった。また、「THE LAST NARUTO THE MOVIE」や「紙の月」など話題の映画を見たいという要望も。ほかに、入院中の母親がいる病院を経由して自宅まで同行して欲しいという依頼もあった。

記念講演会のお知らせ

幼少期の子どもを持つ母親向け講演会 2月6日 聖蹟桜ヶ丘で無料開催

子育て中の母親を対象とした講演会「子育てを楽しむレシピ」が2月6日(金)、聖蹟桜ヶ丘駅前の関戸公民館で開かれる。講師は島田療育センターの山本秀二氏。心理判定員として多くの療育相談に関わるなかで培われた経験談は必聴。10時からスタートで参加は無料。



⊖会場は駅の西口を出てすぐのヴィータ8階にある大会議室。9:30開場で先着順。詳細・問合せは多摩市障害者福祉協会・講演会実行委員会(Tel042-356-0308)まで

アートひまわり

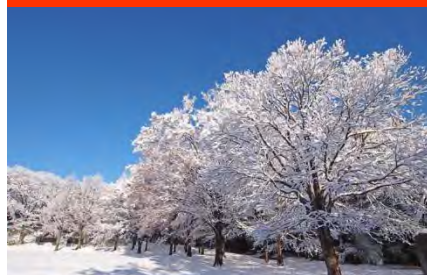
加盟団体紹介

多摩市身体障害者福祉協会が1985年11月、身体障がい者の訓練グループとして結成したのが始まり。現在、月・水曜日と火・木曜日の2クラス編成で訓練を実施している。2012年には就労継続支援B型事業所の指定を受け、手工芸や刺し子、和布巾、袱紗などを製作している。送迎バスあり。金曜は自主通所。



⊖1997年のオープンと同時に唐木田にある多摩市総合福祉センターに移転。5階で活動している

多摩市障害者福祉協会



つながりを力に、人と人を結ぶ
月刊多障協通信 ルリエ

relier



発行：多摩市障害者福祉協会
多摩市南野3-15-1 総合福祉センター5階
障害者団体共用室
☎042-356-0308 FAX042-311-2327
ホームページ <http://tashokyo.com>

多障協だより
未広がりひつじ年
2015開運第1号!!

2015年1月25日発行
2015年第2巻第1号

目次

事業報告

障がい福祉の議論深める1年に	1
支援センターの一ま	2
障がい者就労支援センター	3
理解推進事業	4
移動支援事業	4
資源化センター事業	4
加盟団体からのお知らせ	4
加盟団体紹介	4
ヘルプカード配布のお知らせ	4

連載

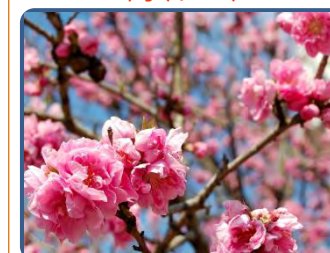
NEWS	1
今月の花	1
プログラムカレンダー	2
今月のひと口解説	3
現場からの声	3

障がい福祉の議論深める1年に

年が明け、今年も早1か月が過ぎた。年末の総選挙では与党が大勝。しかし、投票した人は二人に一人。意識の低さは問題だが民意が反映されたとは思えない。世の中では成果、結果、効率化が求められ、重んじられるこの頃。今年こそ障がい者福祉の現状と課題について、身近な地域から議論を深める年にしていってはどうだろう。普段、耳に届かない情報を市民・地域住民に届け正しい理解を求めていく。さらに施策へと反映させる。

当協会は、障がい当事者の団体や障がい児者の家族会、福祉作業所(継続支援B型等)等で構成されている。障がいと何十年と向き合い生活している当事者、障がいを持つ子と日々生活している家族、生活介護や作業・就業訓練を通じ共に働く職員。3つの立場を協会がつなげ、議論を重ね、情報を発信していきたい。2015年が有意義な年であることを願う。

今月の花 梅(うめ)



春は名のみ寒い日が続くなか、凜(りん)とした姿に季節がやわらいでいく。花よし、香りよし、果実よし。「松竹梅」とめでたいものの代表でもある。花言葉は「高潔」「忠実」「気品」「厳しい美しさ」。つぼみがほころび始める頃には、春の足音が聞こえてくる。

NEWS~道のり険しい"違いを認め支え合う共生社会"を考える

国は、2013年度1年間に全国の自治体などが確認した障がい者への虐待件数を公表した。被害者は2659人で、うち3人が命を奪われているなど家族、施設、事業所での深刻な状況が明らかとなった。全体の8割近くが身近な養護者からのものであることや知的障がいの被害者が最多などの特徴がある。公表された件数は氷山の一角に過ぎないとの指摘もある。虐待に気づいた人は自治体に通報する義務があるが、改めて障がいの権利擁護に思いを巡らす機会としたい。

※『relier』は「つながり」や「結びつき」を表わすフランス語。人と人、地域と地域をつなげることで真の共生をめざしたいという意味を込め、リニューアルした広報誌にこの名前をつけました

4 ※の一まの『HOTはっと』は2014年9月号、本部で発行しておりました『多障協だより』は2014年1月発行の冬号をもって最終号とさせていただきます、昨年9月より2つを統合し『月刊relier』としてリニューアル発行させていただくことになりました。長い間ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします

お楽しみ会報告



27名が参加。コーラス発表、ビンゴ、プレゼント交換、マジックショーを行なった。

参加者も司会を担当。会場の片づけや、配布物など参加者が積極的に手伝う場面もあった。



コーラスでは14名が「ふるさと」「花は咲く」「ありのまま」の3曲を発表。毎月の練習の成果もあり、大熱唱であった。

参加者のギター演奏、普段参加されない方も参加し、いつもとは違うコーラスとなった。



○ハンカチや縄を使ったテーブルマジック

○ビンゴの上位者には景品があり、真剣な様子



外出プログラムのお知らせ

今年度2回目の外出プログラムは2月18日(水)に実施し、神代植物公園・深大寺へ行く。

日程:2月18日(水)

時間:10:00~15:30(予定)

持ち物:障害者手帳、お金(交通費580円+昼食代1000円程度)常備薬
~申し込み方法~

受付にある参加者名簿に2月3日(火)までに名前を書き職員に保険代30円をお支払い下さい。

プログラムお休みのお知らせ

11日(水)の専門相談『福祉こころ相談』、リラクセス体操は、の一まお休みの為中止です。

12月相談件数

面談は前月と比べ2割増加の99件。フリースペース利用は2%増加の91件。不定期の行事もあったが、プログラム全体で参加者は3割減少の46名となった。

第3四半期報告

相談件数は237件となった。の一まのプログラム、行事についての相談、問い合わせが3割ほどで最も多かった。新規登録者は10名であった。

『チャーリーとチョコレート工場』あらすじ

貧しいながらも幸せに暮らす少年チャーリー。家のそばには、世界のチョコレート“ウォンカ”をつくり続ける謎に包まれた不思議なチョコレート工場があった。ある日、世界中から選ばれた5人の子供たちが、謎めいた工場見学に招かれるのだが…。

お知らせ

イブニングタイムで卓球台を利用できるようになりました。

日	月	火	水	木	金	土
1 休み	2 休み	3	4 福祉こころ相談 10:00~12:00	5	6 イブニングタイム 17:45~19:30	7 発達障害相談 10:00~12:00 利用者ミーティング 13:30~14:30
8 休み	9 休み	10 身体障害相談 13:00~15:00	11 建国記念の日 休み	12	13 イブニングタイム 17:45~19:30	14 映画会 『チャーリーとチョコレート工場』 13:30~15:30
15 休み	16 休み	17	18 外出プログラム 神代植物公園 深大寺 10:00~15:30	19	20 イブニングタイム 17:45~19:30	21
22 休み	23 休み	24	25 スタッフミーティング 10:00~12:00 リラクセス体操 14:00~15:00	26	27 イブニングタイム 17:45~19:30	28 コーラス 14:00~15:30

仕事も生活力もUP! 2015年に向け新たな誓い



○料理の前に飲み物を注文。居酒屋での忘年会はマナー講座で身につけた力をためやすい機会となった



○仕事面だけではなく普段の生活で困ったことや今後の目標などそれぞれの思いがいっぱい

2014年最後の生活支援プログラムは12月20日、センターの大掃除の後、場所を移動して忘年会を行なった。一方にしか参加できないメンバーもいたが掃除には12名、忘年会には9名が集まった。当日は、前回のプログラム時に渡しておいたシートに仕事面や普段の生活面について書いてきてもらったが、よく出来たこととして作業スピードが上がったこと書いた者が6人で最多。社内ルールを守り、きちんと報告・連絡が出来たという者もあった。一方、失敗したことで、製品を落としたり作業手順を間違えるといった作業面のほか指導員や同僚とのコミュニケーション面を挙げた者もいた。今後の目標では、仕事を頑張るという答えのほか家事や買い物、旅行など生活面を充実させたいとの声も多かった。



○仕事で清掃をやっているメンバーもいて床も窓もテーブルもぴかぴかに

「今後のために貯金したい」 現場からの声

コンビニエンスストアの入口で一瞬入るのをためらった。しかし気付いた時にはレジにたくさんの飲み物やパンを持って並んでいた。毎日一生懸命働いて稼いだお金を自分のために使って何が悪いのか。親も支援センターも口うるさく節約しろと言う。確かに飲み物もパンも買わなくても家にある…でも買ってしまふ。自分の行動を止められない。今後のことを考えていないわけではない。でもどうしたらいいのかわからない。そんな彼が「今後のために貯金をしたい」と口にしたのは昨年6回目の定期面談の時だった。顔なじみの支援者に向けたその一言、それは彼のSOSだった。支援者と買い物をしたレシートを確認することにした。毎日のちょっとした無駄遣い、1日1日は少額でも積み積もって大きな額になっていた。これを減らしたら貯金ができるかもしれないと思った。コンビニエンスストアを横目に自立に向かって彼は家路を急ぐ。

●実績報告●

10-12月の新規就職者は4名

10~12月の第3四半期実績は相談件数が1072件で前年同期比1割増。これは就職後の会社や関係機関からの相談が増えたため、就職前の相談は2%減の387件となっている。相談者の比率としては半数が登録者本人、次いで関係機関、会社、家族となっている。就職後の支援における職場訪問の割合は約3割。登録者数は14名増え192名となった。新規就職者は前年同期比5名減の4名。内訳は病院事務、保険会社事務、調理補助、販売・接客。4月からのトータルで33人となり、前年同期までと比べると32人から1名増となっている。

12月の相談件数は304件で前年同期比6%減。うち3分の1が就職前の相談となっている。

●今月のひと口解説●
さまざまな働き方

雇用形態には、大きく分けて、正社員、契約社員、派遣社員、パート社員(アルバイト含む)の4つがある。

- ①正社員
特に雇用期間は定めず定年までの正規雇用で雇われた労働者
- ②契約社員
時間数や給与等の条件が契約によって定められており、有期の期間で雇用契約を結んで職務に従事する常勤労働者
- ③派遣社員
人材派遣会社に雇用され、契約先の企業へ派遣される労働者
- ④パート社員
雇用期間が短く、正社員よりも短い労働時間で働く労働者

働き方が多様化し個人の必要に合わせて選択できるというメリットがある反面、労働者全体の非正規雇用の割合が4割に届く勢いで増加を続けており社会保障や給与格差など社会問題にもなっている。